

やまとの名品

天理図書館



さん し ろう  
三 四 郎

夏目漱石自筆原稿

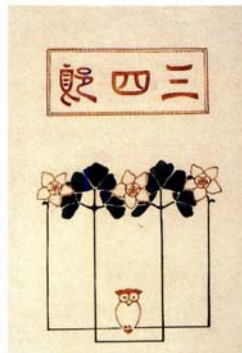
縦 25.5 cm 横 17.5 cm

明治 41 年筆 4 冊

夏目漱石（一八六七～一九一六）と聞いて、すぐ思い浮かべる作品は『吾輩は猫である』、『坊ちゃん』であろうか。これらの執筆により小説家としての地位を確立した漱石は、四十一歳の時、大学講師の職を辞し朝日新聞社に入社、職業作家としての道を歩み出す。『三四郎』は『虞美人草』『坑夫』に続いて入社第三作目となる新聞小説で、明治四十一年（一九〇八）九月一日から十二月二十九日まで、一一七回にわたり東京・大阪の『朝日新聞』に連載された。後に著される『それから』『門』へと続く前期三部作の一つ。

熊本から東京帝国大学入学のため上京した小川三四郎が主人公。三四郎は広田先生、先輩野々宮、同輩与次郎、そして都会の華やかさを持つ美しき女性美禰子たちとの出会いの中で、様々な経験をしてゆく。本書は、日露戦争後の急激な経済発展を遂げる時代に生きた、青年の憧れと迷いを描きだした青春物語である。原稿は、十行十九字詰の漱石専用原稿用紙にペン書。一回分はほぼ七枚前後で全九二八枚。十九字詰なのは、『朝日新聞』の小説欄が一行十九字だったため。「漱石山房」の文字に竜の輪郭は、『吾輩は猫で

ある』の装訂も手がけた橋口五葉のデザイン。「漱石山房」は明治四十年から執筆の拠点とした住居の名称である。



右カット図は新聞掲載翌年五月、春陽堂から出版された初版本表紙の原画で、原稿用紙デザインと同じく橋口五葉画。本館は自筆原稿、初版本表紙原画のほか、初版本、掲載当時の『朝日新聞』切り抜き等もあわせて収蔵している。

（天理図書館 岡本千佳）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>  
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）  
 ただし11月3日、28日は休み  
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）